

開催地名：広島県広島市	
開催日時	令和元年8月4日（日） 9：00 ～ 10：30
開催場所	広島市総合防災センター
語り部	田代 賢司 （千葉県富里市）
参加者	広島市消防団 約90名
開催経緯	広島市では、活動する消防団員の命を守ることを基本とした活動を行っている。これに伴い、救命胴衣、ゴーグル、ロープ、ゴムボート等の安全装備品を整備するとともに、「広島市消防団震災対応マニュアル」「水防時における消防団員の活動マニュアル」等を策定し、震災、豪雨災害に備えているところではあるが、豪雨災害を経験した団員は多いものの、津波による冠水地域での活動や大規模な震災での活動を実際に経験したことのある団員が少なく、このような活動の経験不足が課題となっている。今回はこの部分を補うようなお話を伺いたい。
内容	（１）東日本大震災ボランティア活動の体験 ・ 同僚８人で、遺体の搜索等、宮城県でのボランティア活動を行った。 ・ 被災地の救済に車で向かっても、道路は瓦礫の山で車での通行ができないため、たどり着けないので、徒歩で30分から1時間かけて向かった。 ・ 被災地では、一部の地域で泥棒が多発し、ボランティアと泥棒の区別ができなため、テントを張るのは禁止されていた。 ・ ボランティアの受け入れ体制が整っていれば、受け入れがもっとできた。ボランティアの宿泊先は、宿泊可能なボランティアセンター、被災地から離れたホテル等だった。8月には、千葉発東北応援団のボランティアバスが出て、外国人も参加していた。 （２）釜石の奇跡 片田敏孝教授（群馬大学名誉教授・東京大学特任教授）は岩手県の釜石市の小・中学校で8年間防災教育に関わった。どんな津波が来ても、できることは逃げるということ“避難三原則”について話をしたい。 ① 「想定にとらわれるな」「ハザードマップを信じるな。」 ハザードマップはあくまで想定にしか過ぎない。災害時に非常に多いのは、マップの想定に基づいた行動をとって人が亡くなるケースである。子供たちに「相手は自然なのだから、どんな想定外のことも起こりうる。先生が言ったから安全だ」といった受け身の姿勢では絶対にダメだと伝えた。

② 「その状況下において最善を尽くせ」

釜石東中学校の子供たちが実際にとった行動は模範的なもの。予め指定してあった避難所にたどり着いたが、男子生徒が「先生、ここじゃダメだ」と言って、その先にある施設に移ることを提案し、全員が移動したわずか 30 秒後に、最初にいた避難所は津波にさらわれることとなった。(当初、学校も津波に浸からないものとされていた)

③ 「率先避難者たれ」

「もし、その時が来たら他人を救うよりも、まず自分の命を守り抜くことに専念せよ」という意味である。※早く避難することが重要である。

今回の津波でも、大声を出しながら全力で駆け出した中学生たちが児童を巻き込み大挙避難する彼らの姿を見て、住民の多くも避難を始め、3,000 名の命が守られた。

(3) 最後に

片岡敏孝教授の避難の三原則、釜石の奇跡により、津波、災害が発生する前には、避難をするよう国からも指示されるようになった。有事の際は、まずは、避難するよう心がけてほしい。



開催地より

東日本大震災のボランティアの経験談とともに、釜石の奇跡(片岡敏孝教授の避難の三原則)についてのお話を詳しく伺うことができた。今後の活動に大変参考になると思う。